

平成30年漁獲可能量留保枠の配分（案）について（まいわし）

平成30年10月
水産庁

まいわしの平成30年漁獲可能量留保枠の配分について、農林水産大臣が定める数量を以下のとおりとする。

【太平洋系群】

(単位：トン)

	大中型まき網	愛知県	三重県	宮崎県
配分量 (農林水産大臣が定める数量)	21,400	9,100	14,500	10,500
基本計画に定める数量に、配分量を加えて得た数量	396,700 ^注	34,100	90,500	47,500
留保枠の残枠	14,500			

注：第89回分科会で承認された数量（71,000トン）及び今回の対馬暖流系群の配分量を含む。

【対馬暖流系群】

(単位：トン)

	大中型まき網	石川県	島根県	長崎県
配分量 (農林水産大臣が定める数量)	2,300	3,200	3,700	2,700
基本計画に定める数量に、配分量を加えて得た数量	396,700 ^{注1}	27,200 ^{注2}	32,700	13,700
留保枠の残枠	1,100			

注1：第89回分科会で承認された数量（71,000トン）及び今回の太平洋系群の配分量を含む。

注2：第88回分科会で承認された数量（3,500トン）及び第89回分科会で承認された数量（2,500トン）を含む。

（配分量算出の考え方）

1. 太平洋系群・対馬暖流系群とも、再評価結果を踏まえ、留保枠の9割を配分する。
2. 配分量は、1. で得られた数量の50%を均等割で、残りの50%を実績割（平成26～28年の実績に基づく）で算出した数量の和とする。
3. 配分を希望しない又は配分量引き下げの要望により生じた数量は、留保枠に戻す。

(以上)

平成30年漁期TAC（まいわし）の設定及び分配について

1. TACはABC以下とする。
2. TACの2割を留保枠とし、当初配分は8割とする。「漁獲可能量（TAC）の配分シェアの見直しについて（第84回水産政策審議会資源管理分科会資料5）」に従い、過去3カ年（平成26年から平成28年）の漁獲実績に基づき、大中型まき網漁業及び都道府県へ配分する。
3. 来遊状況に応じ不足が生じた場合には留保枠から配分する。ただし、再評価前にすべての留保枠を放出することはしない（少なくとも留保枠の2割程度は残す）。
なお、資源量が少ない系群（対馬暖流系群）を漁獲している都道府県への再配分量の総計は、留保枠に占める当該系群相当量[※]（19,000トン）以内とする。この場合においても、再評価前は少なくとも2割程度残す。

注：留保枠にABC全体に占める当該ABCの割合を乗じて算出